



平成29年度 埼玉県立熊谷高等学校 つくばサイエンスツアー
 <農業食品> ツムラ漢方記念館
 森林総合研究所

1年4組18番 高橋 誠 / 6組35番 松島 知樹
 7組29番 廣瀬 駿 / 8組20番 高橋 優介

○ツムラ漢方記念館

漢方医学は中国を起源とする日本の伝統医学である。分析的な手法・見方により特定の薬を服用し、病気そのもののみを治していく蘭方医学に対し、漢方医学では個々の異なる病態を心身両面から治療することを目指す「個の医学」と呼ばれている。

(株)ツムラは1893年に津村重舎氏が津村順天堂を創業し、124年もの歴史がある。現在では、日本・中国だけでなく、ラオスにも工場を造り、漢方を世界に広めるようとしている。茨城工場では、記念館の他に研究所や薬草見本園などもあり、世界一の医療漢方剤の工場となっている。



◇見学を終えて◇

私は薬学について興味があるので、今回の研修でのツムラ漢方記念館での学習は有意義であった。蘭方薬が主流の今日ですが、生薬を使う漢方が1度見直されるべきでないかと思った。(松島)

「漢方」に馴染みがなかったが、漢方医学が日本の医学で、心と体を総合的に考える医学であることに感銘を受けた。(高橋優)

○森林総合研究所

樹木の定義は、背が高い、長生きする木と勘違いされているが、実は「年々、幹が太くなる木」である。道管がある木を“広葉樹”、道管がない木を“針葉樹”と呼ぶ。木が水を吸い上げる力は、5～10気圧にもおよぶ。木の蒸散がもっとも活発な部位は、木の先端に近い部分であるようだ。これは水の分子間力により、道管内の水分が先端まで吸い上げられるためである。

また、マツの木にとっての害虫であるカミキリムシに対する対策として、木を振動させるようだ。カミキリムシに振動を与えることにより、カミキリムシが木を食べることがなくなる研究が行われている。木に関する様々な研究が日夜行われている。

◇見学を終えて◇

森林関係について、1つ1つの役割や結果を関連させ、総合的な研究が行われていることに驚きました。目的を明確にして、結果を出すまでのプロセスを立てる練習をしていこうと思いました。(廣瀬)

“木”に関わる生き物である、虫や鳥、動物そして人間を関連させながら、研究していくことの大切さがわかった。(高橋誠)

